

「ゼロから考える少子化対策PT」 第1回会合	資料2
有識者略歴	

## 有識者略歴

### 山田昌弘（やまだ・まさひろ）氏

現在、中央大学・文学部・教授

1957年東京生まれ。1981年東京大学文学部卒。1986年同大学院社会学研究科博士課程退学。東京学芸大学助手、講師、助教授、教授を経て、2008年より中央大文学部教授。内閣府・国民生活審議会委員、内閣府・男女共同参画会議民間議員。

専門、家族社会学。愛情やお金を切り口として、親子・夫婦・恋人などの人間関係を社会的に読み解く試みを行っている。「学卒後も基礎的生活条件を親に依存している未婚者」の実態や意識について分析した著書「パラサイト・シングル時代」(ちくま新書、1999年)は話題を呼んだ。1990年代後半から日本社会が変質し、多くの若者から希望が失われていく状況を「希望格差社会」(ちくま文庫)と名づけ、格差社会論の先鞭をつけた。また、婚活の造語者でもある。2006年「格差社会」で流行語大賞トップ10受賞。著書は他に、「近代家族のゆくえ」(新曜社)「迷走する家族」(有斐閣)「家族ペット」(文春文庫)「新平等社会」(日経BP・Biztech 図書賞受賞・文藝春秋)「少子社会日本」(岩波新書)「婚活時代」(ディスカヴァー21)など多数。

### 三浦 展（みうら・あつし）氏

現在、カルチャースタディーズ研究所・主宰

1958年生まれ。82年、一橋大学社会学部卒業。(株)パルコ入社。マーケティング情報誌『アクロス』編集室勤務。同誌編集長。

「第四山の手」「新人類」等のキーワードを使い、世代、消費、都市などを分析。特に団塊世代研究、東京論、郊外研究等により注目を集める。

90年、三菱総合研究所入社。マーケティング、労働行政等を担当。

99年、「カルチャースタディーズ研究所」設立。団塊ジュニア世代、団塊世代などの世代マーケティングを中心に、自動車、家電、情報機器、食品などの商品企画、デザインのためのマーケティング等を行う。

また、家族、消費、階層、都市問題などを研究し、「下流社会」「ファスト風土」「2005年体制」「真性団塊ジュニア世代」などの概念を提案、マーケティング業界のみならず、社会学、家族論、青少年論、建築、都市計画など各方面から注目されている。